

杉戸高校ダンス部

Sergeant 3 Policy

2020.6.1. Ver.1

チーム名：Sergeant

部訓：Represent SGT、文舞不岐、peace, unity, love, and having fun.

目的：人格の完成

目標：全国制覇、主体性の確立、ダンス技術の向上、文化的教養を高める

部則：校則の遵守、成績の保持、指導の徹底

入部条件：部活動を最優先にできる者、肖像権について部に一任できる者

ジャンル：Brandnew Oldschool HIPHOP

Oldschoolの時代からのストリートダンスの様々な知識・技術を習得し、自分たちなりに再解釈して活用することで新たな価値を生み出す。

0. 前提として

・部活動とは

杉戸高校グランドデザインより

1. ディプロマ・ポリシー

①部員一同で協議の上、目標とした大会成績の達成

②特に「主体性」の確立

③高いダンス技術の修得

④高い文化的教養の修得

2. カリキュラム・ポリシー

3. アドミッション・ポリシー

①部活動を最優先にできる覚悟

②肖像権について部に一任すること

③できるかどうかではなく、やるかどうか

0. 前提として

・部活動とは

「自主的」：やるべきことに自ら取り組むこと

「主体的」：何をやるべきかを自ら考えて行うこと

学習指導要領では、この2つの語は明確に使い分けられている。

ex)「主体的・対話的で深い学び」⇔「生徒の自主的、自発的な参加」

では、部活動はというと

「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」（学習指導要領総則）とされている

⇒自主的にそれに参加するかどうかを判断するためには、「どのような活動であるか」（やるべきこととは何か）を生徒自身が理解する必要がある。

したがって、本校ダンス部ではこれまで、入部説明会を実施し部の活動目標や顧問の指導方針を明確に示した上で、自主的に参加したいかどうかを確認した上で生徒に入部を認めてきた。

これについてより明確にするために、大学が示している3つのポリシーになぞらえて活動のポリシーを確認しておきたい。

また、部活動は杉戸高校の行う「教育活動の一環」として、教育課程との関連が図られるよう留意する必要がある

教育の目的＝人格の完成（教育基本法第1条）

杉戸高校ランドデザインより

【学校目標】

一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校

【教育重点目標】

- ・進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する
- ・総合的な知の習得を行う

【解説】

生徒一人ひとりが、将来所属する社会の中で、何らかの形で活躍できる場面のことを夢と定義する。

生徒の夢を見つける過程を様々な学校活動を通じて支援するとともに、夢の実現の土台となる様々な知識・技能を総合的かつ主体的に学び、夢の実現へ自走し、自らの考えを発信できる生徒を育成する。

目標を達成するために、杉戸高校では5つの力の伸長を図る。

5つの力の育成

- 【主体性】自分が何をすべきか、自ら考え行動できる人間
- 【協調性】周りの仲間と協力して高めあうことができる人間
- 【発信力】自分の意見を周りに伝えることができる人間
- 【共感力】相手の意見や想いを受け止め共感できる人間
- 【継続力】最後まで粘り強く努力し続けることができる人間

したがって、部活動指導においても「人格の完成」という目的を果たすことを期して、5つの力の伸長を図り、生徒の夢の実現という目標達成に寄与することとする。

1. ディプロマ・ポリシー

「5つの力」すべてにおいて資質の高い人材を育て、人格の高い人間を輩出する。部員が「夢」を自ら実現できる人間となるため、杉戸高校ダンス部Sergeantでは以下の目標を策定する。

①部員一同で協議の上、目標とした大会成績の達成

運動部として、目標とすべき大会選定とその目標設定を行い、技術向上や人間性の向上を図る。

R2年度現在、以下の2つを主要な大会として位置づけ、全国制覇を達成するべく活動している。

I. 全日本高等学校チームダンス選手権大会（主催：一般社団法人全日本高等学校ダンス連盟）

ストリートダンスの教養や技術を正當に評価するような審査基準や項目であり、かくある大会の中で最も本校ダンス部のポリシーに合致した美的価値観や文化性を有した大会であるといえる。したがって、習得した知識・技能の「活用」段階を試す場として最も上位に位置づけている。

II. 全国高等学校ダンスドリル選手権大会（主催：特定非営利活動法人ミスダンスドリルインターナショナルジャパン）

HIPHOP部門が設けられたドリル競技の大会として採点の「競技性」が非常に強く、基礎的な技能の習熟度を客観的に測ることができる。また、全国大会よりもさらに上位の世界大会が設定されている。

②特に「主体性」の確立

5つの力の向上のため、特に重点項目として「主体性」の確立を置く。他の4つを主体的に伸長するためである。また、その先に「学びの深化」の主体的な実現を期待する。

③高いダンス技術の修得

ダンス技術の巧拙の判断の基準は、種類やジャンルによって様々である。したがって、ダンスの多様性を理解するとともに、各ジャンルの特性を把握し、適切な美的価値観を共有することが求められる。杉戸高校ダンス部Sergeantでは、「ストリートダンス」の枠の中でダンス技術を高めていくことを目的とする。

i 「黒さ」「ストリート感」「グルーヴ」「セッション」といったストリートダンスの特性を重視

ii リズム

iii アイソレーション

iv ヒット

v ステップ・重心・体の軸

④高い文化的教養の修得

- i ストリートカルチャー、特にHIPHOPカルチャーへの理解
- ii ダンスの持つ社会的価値への理解
- iii 音楽理論への理解
- iv ファッション感覚の共有
- v ダンサーとしての礼節の理解
- vi 総合的な知の習得の必要性への理解

2. カリキュラム・ポリシー

杉戸高校ダンス部Sergeantでは、以下のような取り組みを通じて、ディプロマポリシーで示した諸目標を達成するために活動・指導するものとする。

- ・ 校則の遵守
- ・ 成績の向上
- ・ 指導の徹底
- ・ コンテストへの挑戦
- ・ 基礎・基本練習の反復、検証
- ・ 部員の相互評価・ダメ出し
- ・ バトル練習
- ・ フィジカルトレーニング
- ・ 校歌指導
- ・ モノマネ・一発芸
- ・ ミーティング 哲学対話の手法、ファイルの共同編集を通じた協働的な学び
- ・ PDCAサイクルの回転 マンダラチャート・ポートフォリオの蓄積
- ・ 時間集計と部員間での共有
- ・ 勉強会の実施
- ・ 公演の企画・実施
- ・ OBOG人材を用いた外部コーチの活用
- ・ 校外合宿の実施
- ・ 他校との合同練習の実施
- ・ 社会的イベントへの貢献
- ・ 部員の主体的な企画・立案の奨励

3. アドミッション・ポリシー

カリキュラムポリシーで示した活動に自主的に取り組むことができるよう、杉戸高校ダンス部Sergeantでは以下のような資質や覚悟を持った生徒の加入を求める。

①部活動を最優先にできる覚悟

・顧問の指導やこれまでの活動の意図を部員自らが主体的に考え、徹底することが求められる。3つのポリシーを理解した上で、引退まで自主的に取り組むことのできる者のみに入部を認めている。したがって、部活動に集中できるような生活習慣や学習習慣の定着は必須である。巷には、ダンススクールが乱立している。あえて部活動として取り組む意義を考えれば、それを最優先にすることは必須である。

②肖像権について部に一任すること

・ダンス部の活動の特性上、映像や写真が広くメディアに露出することが多い。したがって、部全体の活動の幅を担保するためにも個人の肖像権について部に一任できる者のみに入部を認めている。

③できるかどうかではなく、やるかどうか

・高校生は自分を成長させるために学んでいる最中であるため、達成状況としてできるかどうかは、さして問題ではない。重要なのは、「できる」ように「やろうとするか」どうかである。自分の資質や能力の到達段階に鑑みれば、失敗する可能性が高い場面があることも考えられるが、それでも主体的に取り組まなければ成長はない。挑戦する勇気とは、失敗して恥ずかしい思いをしたり、傷ついたりする可能性を自ら引き受けることである。